

市原市で早期乾田直播栽培の現地検討会を開催

～省力化技術導入による規模拡大を目指して～

千葉農業事務所改良普及課 令和6年9月6日発

市原市では、水稻農家の減少により、大規模水稻農家に農地が集積し、1戸当たりの栽培面積が拡大しています。このような大規模水稻農家は、通常の栽培方法（移植栽培）だけでは、4～5月に作業が集中するため、更なる規模拡大を図ることが難しい状況です。早期乾田直播栽培は、3月中旬に、入水前の水田に種子をまく方法で、移植栽培に必要な育苗、代かきを省略できるとともに、ほ場作り、播種の作業分散ができる技術です。

そこで農業事務所では、大規模水稻農家への本技術の普及を図るため、市原市と連携して現地検討会を8月1日に開催し、水稻生産者15名の参加がありました。検討会では、展示ほの生育状況を確認し、栽培技術について意見交換しました。参加者からは、「移植栽培と変わらない生育状況で驚いた」、「栽培技術の特徴がよく分かった」との感想が聞かれました。今後も農業事務所では水稻農家の経営規模拡大に向けた支援をしていきます。



展示ほを前に活発な意見交換



早期乾田直は栽培展示ほ（ふさこがね）の様子